

中体連

中学校を卒業（そつぎょう）し、高校生、そして20代くらいまでは、中学校の話になると、部活動のことが話題（わだい）になります。「何部だったの？」そして次は「県大会までいった」「県北（けんぼく）大会には出た」「弱かった」などとなります。この大会というのが中体連（ちゅうたいれん）の大会です。正式名でいうと、中学校体育連盟（れんめい）の大会となります。

東北大会までいった、全国大会に出たとなれば、かなりのことです。めやすとしては、県大会に出たとなれば、部活動のことが話題になったときに少し自慢（じまん）できるのではないのでしょうか。それだけ、県大会まで勝ち進むのは簡単（かんたん）なことではありません。

毎日の練習の積み重ねや部としてのまとまり、礼儀やあいさつ、練習試合や大会での経験、保護者（ほごしゃ）の理解（りかい）と協力（きょうりょく）などがないと、なかなか県大会までいけるものではありません。しかし、県大会に出場（しゅつじょう）できれば、自分の財産（ざいさん）となるのは確（たし）かです。

県大会に出るためには、まずは福島支部（しぶ）大会を勝ち抜（ぬ）かなければなりません。福島支部というのは、福島市と川俣（かわまた）町で福島支部となります。そして、勝負は県北地区大会です。県北地区というのは、福島支部と伊達（だて）支部、安達（あだち）支部の3つとなります。それぞれの支部大会を勝ち抜いた選手たちが県北地区大会に臨（のぞ）むこととなります。ここで勝ち抜けば、県大会に出ることが出来ます。

県北地区大会では、どの学校も県大会に出たいと思って試合をするでしょう。勝負（しょうぶ）はやってみないとわかりません。中体連は、運動部にとっての本番の大会となります。結果はどうあれ、6月1日（火）・2日（水）の福島支部大会まで、それぞれの部が3年生を中心にまとまり、残り少ない練習の日々を大切にしてもらえればと思います。

まとまるというのは、心が一つになることです。みんな同じことを思うことです。思いが一つになれば、行動は変わってきます。その力は、大会でも発揮（はっき）されるはずです。

運動部の3年生にとって、中体連は最後の大会であり、思い出をつくる場です。そして、自分を成長させる舞台（ぶたい）となります。最後の大会に、どんなことを考えて臨むかは、とても大切なことです。中学校を卒業した後も、胸（むね）を張（は）って部活動のことを話せる人になってほしいと思います。